

カイゼンを広めに アフリカへ

エチオピアカイゼン普及プロジェクト

日本開発サービス 菊池 剛



第1回 日本発のカイゼンがアフリカへ広がる

JICAのカイゼン普及プロジェクト



今、日本生まれのカイゼン(改善)が、国際協力機構(JICA)の支援によりアフリカ大陸に普及しつつあります。表1で示しているのは、JICAによるカイゼン普及支援を受けてきた国々で、これまでのところ8カ国に及んでいます。アフリカへのカイゼン普及プロジェクト支援は、2006年のチュニジアより始まりましたが、3年遅れてスタートしたエチオピアが期待以上の成果を上げ、カイゼン普及のモデルケースとして注目されています。

成果の具体的な内容は今後の連載の中で紹介していきますが、主な成果としては、たとえばカイゼン普及のための専門の組織としてのエチオピア・カイゼン機構(EKI)の設立が挙げられます。EKIには2020年6月現在で総職員数154名、うちカイゼン普及要員95名が所属しています。そのほ

か、エチオピア首相が議長を務める国家カイゼン会議が設置されたり、カイゼンの理論と技術を中心とした修士課程および博士課程、資格認証制度、表彰制度が整えられたりもしています。カイゼン普及プロジェクトに参加した大企業は約120社、中小零細企業は約200社に達するほか、プロジェクトとは別に、EKI単独で指導した企業数はさらに多数に及びます。企業以外では大学や病院、あるいは婦人グループへの生活改善としてカイゼンが広がっています。プロ音楽家による“カイゼン・ソング”の作詞作曲などを通じて、今やエチオピアでは、タクシーの運転手やホテルのボーイなどにも知れ渡るようになってきました。

本連載では、エチオピアのケースに焦点を当てますが、エチオピアのカイゼン普及プロジェクトの開始にチュニジアのプロジェクトが影響を与えた経緯もあり、もう1つのモデルケースといってもよく、折に触れて比較することになります。

なお、表1を見ると、他の国は第2次支援、あるいは第3次支援に至っていませんが、今後継続されるか否かは今のところ未定です。また、8カ国以外の国もカイゼン普及プロジェクトの成果を見聞しており、今後アフリカの国々のカイゼンへの関心が高まっていくことが想定できます。しかし、JICAとしては要請のあるすべての国に応じることは予算面でも派遣する人材面でも限界があります。そのため、可能な限り他のアフリカの国々にもカイゼンを普及していくために、アフリカ・カイゼン・イニシアティブ(AKI)というプログラムを立ち上げています。AKIの構想については今後述べることにします。なお、アフリカの国の数

表1 アフリカへのカイゼン普及プロジェクト実施状況

	第1次支援	第2次支援	第3次支援
チュニジア	2006～2008	2009～2013	2016～2021
エジプト	2007～2011		
エチオピア	2009～2011	2011～2014	2015～2020
ガーナ	2012～2015	2015～2019	
ケニア	2012～2014	2015～2018	
タンザニア	2013～2016	2017～2020	
ザンビア	2014～2016	2017～2020	
カメルーン	2015～2017		

出典：Otsuka, Jin & Sonobe 編(2018) “Applying the Kaizen in Africa” (Palgrave Macmillan社)およびJICA報告書を参考に筆者作表